

「セレーノ四つ葉」の活動を見学しました。

本日はお越しいただき心より御礼申し上げます
セレーノ四つ葉
肢体不自由・障害児者/親と仲間の集う会
きもので成人のお祝いをしよう！

2026. 4.18 (土)
開場: 13:00
式典: 13:30-14:00
最終閉会: 15:00
会場: ココランド プランシェ

あんなに小さかったお子さんたち…
ご家族や 支えて下さる皆さまがたの愛情に包まれて
こんなに大きくなりました
今日は晴れ着をきてちょっと大人びてみえるかもしれません
皆さんへ感謝の気持ちも込めて
一緒に ご成長を喜び合えるお時間を過ごせたらと願っています

「きもので成人のお祝いをしよう」は
障害の特性などにより 着物を着たり、
地域の成人式にためらわれているお子さまに、
体に合わせて補正した晴れ着で、
ご家族や支えて下さった皆さまと一緒に、
みんなで成長を喜びあう
セレーノ四つ葉のプロジェクト活動です。
この活動が、地域の成人式参加へのきっかけとなり、
笑顔と嬉しさの輪がひろがる1日になればと
多くの皆様のご協力のもと活動しています

Special Thanks to our supporters
コープやまぐち様・マツダ財団様・華浩山口宇部店様
ココランドの皆さま、ボランティアの皆さま

このイラストは宇部部の中学1年生 みさきさんが
「セレーノ四つ葉」の成人式のお祝いについて書いたお祝い状です

「セレーノ四つ葉」とは

山口県宇部市を拠点とする市民活動団体で、障害のある子ども・大人、その家族や仲間が安心してつながれる場をつくることを目的に活動しています。交流会や学びの場づくり、地域との連携を通して、親も子ども笑顔で過ごせる社会を目指しています。

「きもので成人のお祝いをしよう！」とは

障害の特性などから、地域の成人式にでるのが難しい子どもたちや保護者のため、セレーノ四つ葉が企画した、成人のお祝いプロジェクト。

気兼ねなく参加でき、体にあうよう補正した「晴れ着」を着て、家族、周囲の人々が共に障害のある子どもの成長を喜び、お祝いできる。

2026年4月18日、やわらかな陽ざしに包まれた午後、山口県宇部市のココランド・プランシェにて、セレーノ四つ葉主催「きもので成人のお祝いをしよう」が開催されました。本式典には、5名の新成人とそこにご家族が参加され、それぞれの人生の節目を祝う、あたたかな時間が流れていました。そして私自身にとっても、この日は特別な意味を持つ一日となりました。

これまでこのような催しに参加する機会がなく、十分に関心を持てていなかったことへの思いとともに、実際にその場に身を置いたことで、大きな驚きと深い感動を覚えました。このフレンドリーで温かな雰囲気は時間とともに深まり、会場全体がひとつにつながっていくように感じられました。



式典は当代会長：江本真弓様の挨拶で幕を開け、来賓として宇部市長・篠崎圭二様、華洛山口宇部店：渡華部光路様、生活協同組合コープ山口副理事長：福浪美紀様をご臨席、代表して宇部市長より心のこもった祝辞が贈られました。

その言葉の一つひとつには、新成人の皆さんのこれまでの努力と、それを支えてきたご家族への深い敬意が込められており、会場は静かに耳を傾けるあたたかな空気に包まれました。



続いて成長を支えてくれた恩師たちや、育児の悩みを分かち合った友人らも、これまでの歩みや祝辞をおくり、時に笑顔があふれ、時に目頭を押さえる姿も見られ、「人と人が支え合うことの尊さ」を強く感じるひとときとなりました。



式中に上映された成長記録の映像では、幼少期から現在までの一步一步の積み重ねが映し出されました。その歩みは決して平坦なものではなかったはずですが、だからこそ今この瞬間の輝きがより一層際立って感じられました。また、参加者全員で作りに上げた「寄せ書きの木」は、この日の象徴ともいえる存在でした。葉や実に見立てたシールに、それぞれの想いが込められ、一枚また一枚と重なることで、やがて大きな一本の木となっていくます。そして、準備から当日の式典まで、中学、高校、大学生などのボランティアのみなさんが、障害のあるお子さんやご家族をサポートし、心温まる交流が広がりました。この様子はまさにこの寄せ書きの木のように、それぞれの人生が支え合いながら実を結び、未来へと広がっていく姿を映し出しているようでした。



今回の参加を通じて感じたのは、言葉を交わすことで、その距離は自然に、そして確かに縮まっていくということも実感しました。

これまで十分に関心を持っていなかった自分への反省とともに、今回の出会いをきっかけに、より深く理解し、関わっていきたいという思いが芽生えました。



おわりに

新成人の皆さんの門出を祝うとともに、その場に集ったすべての人の心がつながった、かけがえのない一日を体験することができました。その温もりは、これからも長く心に残り続けると感じています。

マツダ財団としても、人と人とのつながりを育みながら、次の世代へと想いをつないでいく活動に、これからも寄り添ってまいります。

あらためて、新成人になられた6名の皆さまに心よりお祝いを申し上げます。

皆さまの新たな門出に立ち合わせていただき、誠にありがとうございました。(橋本)